

留学体験談

私はスペイン渡航時、スペイン語レベルは超初級だった。しかし、寮はいきなりスペイン人4人ペルー人1人中国人1人との共同生活。夜ご飯は大体みんなリビングに集まって同じ時間に食べるのだが、ネイティブの速すぎるスピードのスペイン語に全くついていけず毎晩毎晩ストレスが溜まっていった。でも彼女達はいつも優しく、私の宿題を見てくれたり、文法で理解できないところがあれば英語で説明したりしてくれた。

そんな優しい寮の友達のおかげで、私のスペイン語力はぐんぐん伸びていった。今まで街を歩いていても不可思議なメロディーでありふれていた世界が、段々と意味の為すものに変わっていったのだ。より自分のいる世界が明瞭になっていく感覚が嬉しくて、勉強するのが楽しかった。

学校の授業はもちろん全てスペイン語。日本で第二外国語の授業で1年間スペイン語を勉強していたものの、こっちの語学学校で受けた授業は全然日本で受けたものとは違った。スペイン語文法をスペイン語で解説されるので、最初は授業内容を理解するのが大変だった。どうしても日本語の解説が必要な時は、日本語が喋れるペルー人の友達に電話して教えてもらっていた。

留学中は何かと留学生の友達と過ごすことが多かった。お互いスペイン語が母語でない者同士、スペイン語を話すスピードが同じくらいで居心地がよかったからだ。色んな国の留学生と過ごす中で様々な考え方、価値観に触れることができた。私自身、自分の将来進みたい道が大学の友人達とは違く、そんな自分を責めることもあった。しかし、留学生と日々を過ごしていく中で自分の生き方や将来観を肯定することができた。決してみんなと同じである必要はないのだと。

日本人の友人にも恵まれた。特に一番仲の良かった子とはヨーロッパの様々な国を周った。彼女とは長期休みや週末を使って計8か国周った。彼女は美術史を専攻していたこともあって、二人で旅行をする時は必ず現地の美術館や教会を訪れた。彼女のおかげでいつもオーディオガイドの解説抜きで絵画を楽しむことができた。留学の最後には、この彼女と他の日本人の友達とで絵画の展覧会を企画運営した。展覧会の内容は「祭り」や「家族」などの共通のテーマで描かれているスペイン絵画と日本絵画をテーマごとに展示し、絵画を通して日本とスペインの文化の違いや共通点を解説するというものだった。友人同士でそれぞれの得意分野を生かし、無事イベントは大盛況で終わることができた。

そして、この留学生活で一番心に残った出来事はイタリアで18年ぶりに祖父母に会えたこ

とだ。最初に彼らに会ったのは4歳の頃のペルー旅行の1度きり。スペイン語もろくに話せなかった私は、そのあとの彼らとのビデオ通話でもいつも父に同時通訳をしてもらって意思疎通をしていた。18年ぶりの再開で祖父母と空港でハグをした時、二人の小さくなった背中に時の流れを切に感じて涙が溢れてきた。それから1週間、束の間の家族の時間を味わった。祖父母の先祖はどこから来た人なのか、父の幼少期、ペルーはどんな国か、、、話しても話しても尽きなかった。18年という時間を埋め合わせるのに1週間という時間は私には短すぎたけれど、毎日家族の愛に触れることができ、本当に幸せな時間だった。そして、スペイン語を使って彼らと対話する中で、自分を家族の歴史をより知ることができ、自己理解も深まったと思う。

この留学を通して、今まで当たり前だと思っていた日本のインフラ、文化の素晴らしさに気づき、日本がより好きになった。でも、将来海外で生活したい気持ちもまた捨てきれてない。また必ずスペインに戻ってくるであろうように私は日本に帰国後もスペイン語の学習に励みたい。



イベント終わり、スタッフのみんなで撮った写真



アルカラ大学のキャンパス前にある広場の写真